

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の尊厳と入居者の地域における暮らしの支援の重要性を職員全員で確認し理念を作り上げた。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域交流を図りながら理念を実践するために、日々のケアに取り組んでいる。 利用者や職員は、馴染みの関係ができ、ホームの存在が地域に浸透してきた。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族に連絡帳を使って、来訪時に日々の暮らしぶりを伝えている。 地域の行事に参加し、ホームの実情を話している。 ホーム便りを毎月、発行している。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に近隣公園へ出かけたり、地域の行事に参加したり、また、市民センターへ出かける等、地域との交流する機会を作っている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事に参加している。 小学校と継続的に交流会を行っている。 地域の方々が、ボランティアで慰問し交流されている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議で地域の实情について話したり、ホームのイベントへの参加を呼びかける等、地域に役立つことがないか、話し合いをもっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己・外部評価の結果を参考に改善に向けて、具現化できるよう役員会議や常勤者会議、スタッフ会議等で検討している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期開催し、出された意見やアドバイスを受け、サービスの質の向上に繋がられるよう努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括、県グループホーム協議会、事業者連絡会等を通じ、意見やアドバイスを受けサービスの質の向上に繋がられるよう努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加し、報告、勉強会を行っている。 入居時にご家族に制度の概要を説明をしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、スタッフ会議等で話し、周知徹底を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時には簡易な言葉を使い、解りやすく説明することに努めている。 性急な決定をしないよう、時間をとって判断するよう促している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、介護相談員に来て頂き、利用者の相談にのって頂いている。 ホームイベントやおやつ等、利用者の要望を聴き実践している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族来訪時に連絡帳や写真等で日々の暮らしぶりを報告している。 毎月、ホーム便りを発行している。金銭管理は、個人別に出納帳をつけ確認して頂いている。 スタッフは、名札を付け利用者・ご家族に名前を覚えて頂く様に努めている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を開催し、意見・要望を聴くように努めている。 ご家族来訪時には、意見・要望を聴き出すように努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常勤者会議やスタッフ会議等で意見・要望・提案等を聴き、運営に取り入れている。 入居者の決定については、スタッフの意見を聴き調整している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状態変化に対応できるよう人材を確保している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	代表者はホームの会議に参加し、スタッフの意見を聴いたり、入居者と直接話したりし、現場の空気を読み取るよう努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>	<p>募集・採用にあたっては、年齢不問にし幅広い年齢層から採用している。</p> <p>シルバー人材センターからもスタッフを派遣して頂いている。</p> <p>勤務表作成時は、常勤・非常勤を問わず希望を聴き取っている。</p>		
20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>研修に参加、またスタッフ会議等で話し合い取り組んでいる。</p>		
21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修計画をたて、参加させるようにしている。</p> <p>研修受講後は、スタッフ会議の場で報告を兼ね、勉強会を実施している。</p>	○	<p>外部研修への参加だけでなく、テーマを決めて事業所内研修や勉強会を実施していく。</p>
22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会や事業者連絡会等を通じ、事業者や職員間での交流、親睦を図りながらサービスの質の向上に努めている。</p> <p>他施設とのイベント事を通じ、交流を図っている。</p>		
23	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩室を確保している。出社退社時等にさりげなく声掛けし、職員の体調や不満に感じていることを聴き取るようにしている。</p> <p>代表者と管理者は、毎月の役員会議の場で雇用・職場環境の整備について話し合いを持っている。</p>		
24	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>資格取得に向けた支援を行い、取得後は昇給に反映させている。</p> <p>代表者は、ホームの会議等に参加して現場の声を聴き、職場環境の整備・充実に努めている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で、生活状況を把握するよう情報収集に努めている。 体験入居を実施している。	
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の意見・要望を聴き、グループホームとして、どのような対応ができるか説明している。 ご家族の思いを受け止め、信頼関係の構築に努めている。	
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のグループホーム、他の介護サービス事業者等の情報提供を行っている。 性急な決定をさせないよう努めている。	
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家庭訪問や退院時カンファレンスに参加して、状態・状況を把握するよう努めている。 入居希望者には体験入居やホーム行事への参加を勧めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の出来る事・出来ない事を把握し役割をもってもらい、入居者同士の協働や入居者とスタッフとの協働を通じ、日々の生活を送っている。 ホーム行事の主旨をを入居者にも話し、内容を入居者と共に考え、入居者に相談し、入居者のアイデアを主としている。	
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを受け止め、ご家族と情報を共有することで協働し支援を行っている。	
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族に入居者の日々の暮らしぶりを報告し、ご家族と入居者の関係性が維持されるように支援している。また、外出外泊した時には、ご家族に外での状態を尋ねグループホームに居る時との違いを聴き、情報を共有している。	
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の知人・友人等と継続的な交流ができるよう支援している。	
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	役割を通じて入居者同士の関わり合いを支援し、入居者同士が助け合うことを見守っている。	
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	行事への参加を案内したり、退去後も連絡を取ったり、ご家族の相談に応じている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりや声掛けの中で、入居者の要望を把握するよう努めている。 今までの生活歴や趣味等からのアセスメントを行うよう努めている。	
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から過去の情報を聴き出す事が困難な場合、ご家族に聴こうとしても中には利用料の支払のみの訪問といったご家族もあり、ご家族に面談する機会が少ない。また、過去を話したがないご家族も少なくない。生活歴を活かしたケアに努めている。	○ 本人自身の語る言葉やご家族・知人・友人等より話を聴き、把握に努めていきたい。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの過去の生活習慣を分析し、現在の心身状態の把握、支援に努めている。	○ 利用者の「出来る力」を把握し、利用者の現状に応じた役割に繋げていきたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者との日頃の関わりの中やご家族来訪時に、思いや意見を聴き介護計画に反映させている。 スタッフ全員で意見を出し合ったり、モニタリングやカンファレンスを行っている。	○ 目標をもっと具体的に解りやすくして、介護計画を作成するようにしたい。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態変化や状況に応じて見直しを行っている、また、ご家族来訪時に説明している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の状態を記録し、情報を共有している。また、ケア記録をもとに介護計画の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の心身状況やご家族の生活状況に応じて通院や送迎等、柔軟に必要な対応を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	各協力機関と普段から連絡を取り合い連携を図っている。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ボランティアに来て頂いたり、市民センターに出かけたりしている。 訪問理美容のサービスを受けている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加して頂き、情報提供を受けたり意見交換を行っている。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関による毎週の訪問診察や毎月の胸写・心電図検査等を行うと共に、複数の医療機関と連携し健康管理に努めている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
47	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
48	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
49	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
50	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
51	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフ会議等で折にふれ、利用者の誇りやプライバシーについて話し合っている。 個人情報の取り扱いや守秘義務について徹底を図っている。	
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者それぞれに合った声掛けを行い、本人に決定してもらう場面作りを工夫している。	
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのその時その時の体調、気持ちに配慮して、個別に支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の生活習慣を把握し、本人の意向・希望で決めてもらっている。また、スタッフは、さりげない支援をするよう努めている。	
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食前に献立を発表したり、嚥下体操をしたり、またスタッフと一緒におしぼりの準備や後片付け等を行っている。	○ ホーム内の食事だけではなく、ファミリーレストラン等を利用し、本人に好きなメニューを選んぶ楽しみを支援したい。
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好物を把握している。たばこやアルコールは、事務所で預り、健康面に配慮しながら支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、さりげなくトイレ誘導を行っている。各居室にトイレを設置し、プライバシーに配慮しながら支援を行っている。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒否する利用者には言葉かけを工夫したり、声かけをするスタッフを代えて対応している。気の合った利用者同士には一緒に入って頂いて、お風呂を楽しめる場面作りを工夫している。	○	入浴剤を入れたり、希望があれば朝風呂を準備して温泉気分を味わってもらいたい。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝付けない利用者には添寝をしたり、また日中は活動を促し、就寝に向け、生活リズムが整えられるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	おしぼりの準備、掃除、洗濯物の干し・たたみ、皿洗い、草むしり、雑巾縫い等、利用者が出来る仕事をお願いし、感謝の言葉を伝え一人ひとりの役割を作り出している。毎月の誕生会や四季折々の行事を実施し、楽しみごとを演出し気晴らしの支援をしている。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時や買い物時には、お金を渡し、本人が支払う場面作りを工夫し、支援をしている。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を感じられる様、日頃より近所に散歩、買い物等に出掛けている。帰宅願望出現時は、一緒に出掛けている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族と外泊・外出される時は準備支援をしたり、外泊・外出先での注意する点、介護方法等を送り支援している。お花見の場所選定等、利用者の要望を聴き出掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	郵便物は、直接本人に手渡し、利用者の希望に応じて、日常的に電話をしたり、手紙を出せるよう支援している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室やホールを利用して頂いている。スタッフは、いつも笑顔で迎えるよう努めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加したり、スタッフ会議や日々の申し送り等でスタッフ間の共有意識を図っている。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関にカギを掛けないようにし、エスケープの時は、さりげなく声掛けしたり、一緒について行く等している。一人ひとりの行動パターンを把握するよう努めている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の動向・状況を把握し、安全面に配慮している。夜間は、2時間おきに安否確認を行い、すぐに対応できるようスタッフは自分の居場所を工夫している。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態・状況に応じて、ケースバイケースで対応している。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを整備している。スタッフ会議でひやりはっと記録を検証し、個別に予防対策について検討を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを整備している。救急・救命訓練の講習を受けている。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練・火災訓練を実施している。 定期的に消防設備の点検を受けている。 地域と連携、協力体制ができています。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者ごとに予想されるリスクについて検証し、スタッフ会議等で話し合っている。 起こり得るリスクについて、入居時、ご家族来訪時に説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	スタッフは、利用者一人ひとりの日常を良く知り、体調や表情の変化を見落とさないよう努めている。 バイタルチェックを行い、状態に応じ医療機関の受診を行っている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ホームで薬を管理し、個別ファイルで記録・把握している。 主治医・看護師と連携し、常に薬の見直しを行っている。 服薬時には、きちんと飲んだか、二重三重のチェックを行っている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	飲食物の工夫をしたり、適度な運動を働きかけたりし、自然排便を促す工夫をしている。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯みがきや口腔洗浄剤を使い口腔ケアを行っている。 入れ歯の管理、手入れを個別に支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲食の摂取状況を毎日、個別に記録している。利用者の状態によっては、ミキサー食・キザミ食・特別食等を提供し、個別に支援している。		
80 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを整備している。利用者・職員共、インフルエンザ予防接種を受けている。調理に携わる職員は、毎月、検便を行っている。ペーパータオルを使用している。		
81 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所を毎回清掃し、検査機関に定期的衛生検査を依頼している。食材は、その日のうちに使い切りしている。毎回、検食を取っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>			
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>			
82 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先が明るい雰囲気になるようプランターを置いて、季節の草花を植えている。		
83 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や各居室の入り口に花を飾ったり、アロマを焚いて、居心地のいい空間づくりをしている。		
84 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールを利用して頂いたり、食堂にソファを置いたり、玄関にベンチを置いたりして自由に過ごせるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、在宅で使い慣れた物を持ち込んで頂き、自由な住環境作りが出来るよう配慮している。 各居室にトイレ・洗面所を設置し、プライバシーに配慮している。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室温は、利用者の体調に合わせて調節している。 アロマとミスシャワーを使い、換気に注意している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーに対応している。 自操式車椅子、介助式車椅子、歩行器等、利用者の状態に応じ準備している。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口に表札をつけたり、トイレ入り口に目印を貼ったりして、環境整備に努めている。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターや花壇を設け、水遣りが出来るよう草花を植え活動できるよう環境整備に努めている。 ウッドデッキを設けている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

意思疎通が困難な利用者には、その場面その場面で必ず声かけし表情を確認している。  
 各居室にトイレを設置している。物詰まりなどのリスクはあるが、個人のプライバシーに配慮している。  
 ご家族は、ホームに自由に泊まることができ、家族との絆を大切にしている。  
 近隣小学校が社会科見学で訪問したり、子供たちが学校帰りや土・日に利用者を訪ねる等恒常的に交流が行われている。  
 提携医療機関の協力により、訪問診療やPTによるホーム内でのリハビリを実施し日々の健康管理に重点を置いている。